

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-11	高等学校	工業	コンピュータシステム技術	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
7 実教	工業 767	コンピュータシステム技術		

1. 編修の基本方針

こんにち、政治・経済・教育・文化など、あらゆる分野でコンピュータが利用され、わたしたちの暮らしを支えている。これらのコンピュータは、それぞれの分野に必要なハードウェアやソフトウェアなどの要素を連携したコンピュータシステムとして利用されることが多い。また、コンピュータだけでなくモバイル端末などでも、文字や音声以外に静止画像・動画像などを表示できるようになり、ネットワークに接続することで、どこでも、いつでも、より多くの情報を得られるようになった。これらの情報をいかに有効に利用するかということは、現代の生活において重要な問題となっている。一方、このようなシステム化された社会においては、情報を利用・提供するコンピュータシステムがどのような手順で開発され、どのように保守・管理されるかについて学習することも重要である。

本書では、学習指導要領に示された目標、内容および内容の取り扱いに準拠するとともに、生徒の学力や能力の実情に配慮し、次の基本方針に従って編修した。

- 1) 内容を理解しやすくするために、学習項目の整理・分類と学習順序にじゅうぶんに配慮した。
- 2) 説明にはできるだけ図を用い、理解を助けるくふうをした。
- 3) システム設計などについては、製造現場としてイメージしやすい仮想の企業を例にして説明した。
- 4) 情報処理技術者試験など資格試験に配慮した。
- 5) 用語は、学術用語およびJISによるものとし、必要と考えられるものには英語を示し、技術英語になれるよう配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
見返し1,2	コンピュータシステム技術と私たちとの関係について、絵を用いてわかりやすく掲載した。 (第1号) (第2号)	見返し 1,2
見返し3	VR,AR について掲載した。 (第1号)	見返し 3
まえがき	コンピュータシステム技術を学ぶにあたって必要なことを掲載した。 (第1号) (第2号)	P6
第1章 コンピュータシステムの概要	章扉にコンピュータシステムの概要に関するものを掲載した。 (第1号) (第2号) (第5号)	P7

	生態系や遠隔診断システムを紹介することにより、環境への意識や生命を尊ぶ態度を養うよう配慮した。(第4号)	P8
	章末問題を記述し、学習が定着できるように図った。(第1号)	P22
第2章 情報のデジタル化	章扉に情報のデジタル化に関するものを掲載した。(第1号) (第2号) (第5号)	P23
	社会の中の多様なコンピュータの利用者に配慮する態度を養うよう、アクセシビリティをとりあげた。(第3号)	P49
	章末問題を記述し、学習が定着できるように図った。(第1号)	P61
第3章 ネットワーク技術	章扉にネットワーク技術に関するものを掲載した。(第1号) (第2号) (第5号)	P63
	章末問題を記述し、学習が定着できるように図った。(第1号)	P145,146
第4章 データベース技術	章扉にデータベース技術に関するものを掲載した。(第1号) (第2号) (第5号)	P147
	章末問題を記述し、学習が定着できるように図った。(第1号)	P189,190
第5章 コンピュータシステムの開発と評価	章扉にコンピュータシステムの開発と評価に関するものを掲載した。(第1号) (第2号) (第5号)	P191
	章末問題を記述し、学習が定着できるように図った。(第1号)	P248,249
見返し4	第4章で使用するSQL文をリスト化し、便宜をはかった。(第1号)	見返し4
見返し5,6	第5章のコンピュータシステムの開発と評価の概要を図にし、さらに理解を深めることができるようにした。(第1号) (第2号)	見返し5,6

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

--

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-11	高等学校	工業	コンピュータシステム技術	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	工業 767	コンピュータシステム技術		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

コンピュータシステムを構成する基盤技術となる, (1)コンピュータシステムの構築, (2)ネットワーク技術, (3)データベース技術, (4)情報媒体の活用技術について学習し, これらの技術を組み合わせたコンピュータシステムのシステム開発手順についても学習する。

あらゆる場所で利用されているコンピュータを有効かつ安全に活用できるようにすることを目指して, 次の目標を達成できるように編修を行った。

- 1) 情報処理システムの分析・設計・構築・運用などのコンピュータシステムに関する知識と技術を理解させること。
- 2) ネットワーク技術, データベース技術, 情報媒体の活用技術に関する知識と技術を理解させること。
- 3) コンピュータシステムの分析・設計・構築等において, ネットワーク技術, データベース技術, 情報媒体の活用技術などを実際に活用するための知識と技術を理解させること。
- 4) 知識や技術を実際に活用する能力と態度を育てること。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
まえがき		P3	1
第1章 コンピュータシステムの概要	(1) コンピュータシステムの構築 Lア コンピュータシステムの概要	P7-22	6
第2章 情報のデジタル化	(4) 情報媒体の活用技術	P23-61	29
第3章 ネットワーク技術	(2) ネットワーク技術	P63-146	45
第4章 データベース技術	(3) データベース技術	P147-190	30
第5章 コンピュータシステムの開発と評価	(1) コンピュータシステムの構築 Lイ コンピュータシステムの分析と設計 Lウ コンピュータシステムの評価	P191-249	29
		計	140